



2020年4月30日

各位

会社名 アーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 丸山 雄平
 (コード番号: 6085 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役 管理本部長 山口 裕司
 (TEL. 06-6363-5701)

特別損失、営業外損失、営業損失の計上及び業績予想数値の修正に関するお知らせ

当社は、2020年3月期において、下記のとおり特別損失（固定資産の減損損失）及び営業外費用（投資有価証券評価損）並びに営業損失（貸倒引当金繰入額）を計上することといたしましたのでお知らせいたします。また、2019年11月7日に公表いたしました2020年3月期通期業績予想数値を下記のとおり修正しましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 特別損失（固定資産の減損損失）の計上

当社は、2020年3月期において、営業活動から生じる損益がマイナスとなる見込みであり、減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額の全額（70,569千円）を減損損失として特別損失に計上することといたしました。

2. 営業外損失（投資有価証券評価損）の計上

当社が保有する投資有価証券について、財政状態や今後の見通しの判定を行った結果、減損処理による投資有価証券評価損（10,000千円）を営業外損失に計上することといたしました。

3. 営業損失（貸倒引当金繰入額）の計上

当社は、2019年12月17日に開示いたしました「債権の取立不能または取立遅延のおそれに関するお知らせ」記載の取引先（ATインターナショナル株式会社）に対する未回収債権（19,010千円）が追加発生いたしましたので、貸倒引当金繰入額として営業損失（販売費及び一般管理費）に計上することといたしました。

4. 2020年3月期 通期業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,125	△154	△152	△153	△94.95
今回修正予想(B)	890	△445	△452	△524	△322.86
増減額(B-A)	△235	△291	△300	△371	
増減率(%)	△20.9	-	-	-	
(参考)前期通期実績 (2019年3月期)	1,253	34	31	30	18.68

(修正の理由)

当第4四半期(2020年1月1日～2020年3月31日)において、以下のとおり売上高及び営業利益等の見込値と同期間の実績値に乖離が生じ、通期において従来予想売上高1,125百万円の達成は困難と判断し、通期業績予想数値を修正することといたしました。

当社は、例年3月に顧客と加盟スタジオとの工事請負契約等が増加し第4四半期に売上計上が集中する傾向があるなか、当第4四半期における売上計画の達成を図るべく、工事請負契約案件や建築設計・監理業務委託契約案件の受注促進に向けて積極的な営業活動に注力するとともに、新施策として「PROTO BANK(※)」を取扱う新しいフランチャイズモデル『PROTO BANK Station』の新規加盟店契約の獲得促進を図ることにより、第4四半期の売上に寄与することを見込んでおりました。また、同じく第4四半期において当社にとっては初の海外展開となる中国企業との間で建築家ネットワークのフランチャイズ契約締結の準備を進めておりました。

(※) PROTO BANKとは、ASJ建築家ネットワーク事業により過去に建設された名作住宅の図面を再利用することで顧客のご予算にあった建築家デザイン住宅をあたかもモデルハウスを選択するかのよう Web上で自由に選択できる仕組みをいいます。

しかしながら、当期は2019年3月末で終了した消費増税の経過措置の影響が残るなか、度重なる大型台風の被害の影響に加え、新型コロナウイルスの感染拡大が続く厳しい状況下において、積極的な受注契約の促進を努めてまいりましたが、顧客の感染リスク軽減のための外出自粛等により契約打合せが延期となり、年度末に予定していた建築設計・監理業務委託契約や工事請負契約の締結案件の多くが4月以降にずれることとなりました。

それらに加え、第4四半期に本格展開を予定していた『PROTO BANK Station』の新規加盟店契約の獲得も、新型コロナウイルスの感染急拡大の影響により多くの契約予定先との打合せ等が進展せず、また、中国企業とのフランチャイズ契約も渡航制限等がかかったことで調印にいたりませんでした。いずれも4月以降の新型コロナウイルス感染収束目途のタイミングにずれするなど成約まで長期化する様相を呈しております。同様に、ASJアカデミー会員獲得に向けて、当社が建築家情報空間「ASJ CELL」において開催予定であった著名建築家による作品展示会や建築展、さらには加盟スタジオによる各種イベントの開催等につきましても中止や延期せざるを得ない状況となりました。

これらの影響から、当第4四半期(2020年1月1日～2020年3月31日)について、スタジオロイヤリティ売上が見込値431百万円から205百万円減の226百万円(52.4%)、建築家フィー売上が見込値34百万円から18百万円減の16百万円(47.0%)、マーケティング売上が見込値55百万円から5百万円減の50百万円(90.9%)、その他売上は見込値16百万円から3百万円増の19百万円(118.7%)の見込みとなり、見込値と同期間の実績値に乖離が生じました。

その結果、通期業績予想数値について、スタジオロイヤリティ売上が前回予想値742百万円から217百万円減の525百万円(70.7%)、建築家フィー売上が前回予想値87百万円から17百万円減の70百万円(80.4%)、マーケティング売上が、前回予想値215百万円から11百万円減の204百万円(94.8%)、その他売上は前回予想値81百万円から8百万円増の89百万円(109.8%)となる見込みであり、売上高全体では、前回予想値1,125百万円から235百万円下方修正し890百万円(79.1%)となる見込みであります。

一方、当社では、加盟建設会社の倒産等により工事の継続が不能となった場合において、当社保証約款に基づき当該物件の完成・引渡しにかかる費用の一部を当社が保証するサービスを提供していたことから、当期において加盟建設会社4社が倒産したことにより、当該保証サービスの発生額並びに将来の損失に備えるため工事完成保証損失引当金繰入額72百万円、貸倒引当金繰入額75百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。

この結果、損益面について、営業損失は445百万円となり、経常損失は、上記2.記載の営業外費用10百万円を計上することにより、452百万円となり、これに上記1.記載の特別損失70百万円を計上することにより、当期純損失は524百万円となる見込みであります。

以上

(注) 本資料に掲載されている将来の見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際は今後の様々な要因によって変動する可能性があります。